

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成25年5月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成25年4月分(平成25年4月1日～平成25年5月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1,623	2.82	3.05	↓	10	百日咳	3	0.01	0.11	
2	RSウイルス感染症	122	0.34	0.20	↘	11	ヘルパンギーナ	11	0.03	0.06	
3	咽頭結膜熱	164	0.46	0.46	↗	12	流行性耳下腺炎	101	0.28	0.63	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	499	1.39	1.65	→	13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.06	↓
5	感染性胃腸炎	3,113	8.65	9.06	↗	14	流行性角結膜炎	66	0.69	1.09	↗
6	水痘	321	0.89	1.35	↗	15	細菌性髄膜炎	4	0.04	0.01	
7	手足口病	150	0.42	0.80	↑	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.02	
8	伝染性紅斑	4	0.01	0.24		17	マイコプラズマ肺炎	22	0.21	0.28	↑
9	突発性発しん	185	0.51	0.58	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成25年4月分(4月1日～4月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	37	1.61	2.23	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	113	5.38	5.43	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.57	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	19	0.90	2.44	→
21	尖圭コンジローマ	12	0.52	0.53	↘	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	18	0.78	1.01	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.29	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 手足口病(58件 → 150件)  
マイコプラズマ肺炎(8件 → 22件)

●急減疾患 インフルエンザ(6,419件 → 1,623件)  
急性出血性結膜炎(38件 → 2件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患、月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	56	結核(56)〔西部保健所(7), 西部東保健所(7), 東部保健所(5), 北部保健所(4), 広島市保健所(18)〕 呉市保健所(6), 福山市保健所(9)〕
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症(1)〔福山市保健所〕
四類	1	つつが虫病(1)〔広島市保健所(1)〕
五類全数	33	風しん(25)〔西部保健所(1), 西部東保健所(8), 東部保健所(4), 広島市保健所(6), 呉市保健所(5), 福山市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所〕, 侵襲性肺炎球菌(2)〔北部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, アメーバー赤痢(1)〔呉市保健所〕, ウイルス性肝炎(B型)〔西部保健所〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(3)〔広島市保健所〕

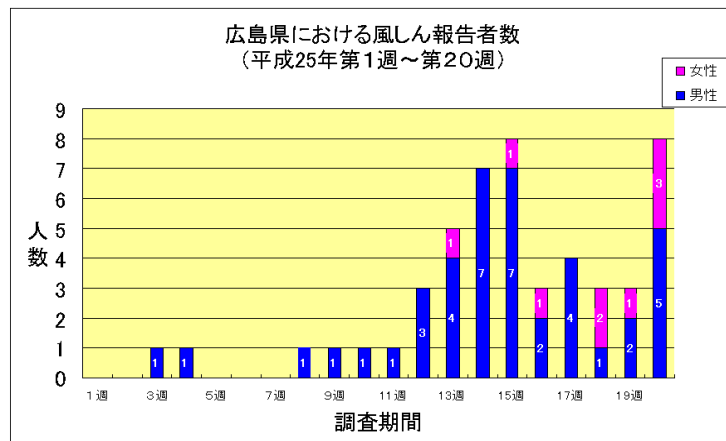
## 3 一般情報

### (1) 風しんの流行に注意しましょう(続報)!!

昨年、広島県での流行はみられませんでした。全国風しん報告数は2,391件(暫定値)と過去5年間で最も多い報告となりました。また、平成25年の全国風しん報告数も第20週末(5月19日)までに7,424件となり、平成24年の同時期と比較し、約35倍となっております。広島県では、報告数が第20週末までに50例となりました。患者は、特に30~40代の男性に多く、その中には予防接種を受けていない人が多いと考えられます。

風しん報告数の増加傾向は数年持続することが知られており、今年も風しんや先天性風しん症候群の増加傾向が持続することが懸念されており、関東及び関西方面の流行地域へ行かれる時は注意が必要です。

風しん報告者数(累計)			
(H25.05.19現在)			
	男性	女性	計
10歳代未満	2	1	3
10歳代	0	2	2
20歳代	3	3	6
30歳代	18	1	19
40歳代	15	1	16
50歳代	3	1	4
60歳代	0	0	0
計	41	9	50
(単位:人)			
性別割合(%)	82.0	18.0	



### (2) これからの時期に注意すべき感染症について

手足口病及びヘルパンギーナの定点医療機関からの患者報告数が4月から増加しております。

#### ○手足口病

手足口病は、乳児・幼児を中心として、夏季に流行が見られる急性ウイルス感染症です。例年、6月から8月にかけて、定点医療機関からの患者報告数が県全体で警報開始基準(定点当たり 5)以上となる流行もみられることから、特に注意が必要です。

病原体	コクサッキーウイルスA16型, エンテロウイルス71型, コクサッキーウイルスA10型など
症状	感染から3~5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜, 手, 足などの四肢末端に2~3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は軽く、通常高熱が続くことはありません。一般的には、数日間で治癒する予後良好の感染症です。ただし、発疹の初期2~3日の症状の変化には注意が必要で、特に、元気がない、頭痛・嘔吐を伴う、高熱を伴う、発熱が2日以上続く、などが見られた場合には、かかりつけ医に受診するようにしてください。また、まれに重症化や合併症を伴う場合があり、特にエンテロウイルス71型に感染した場合は、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を生ずることが比較的多いので注意が必要です。
感染経路	飛沫感染, 接触感染, 糞口感染で、主症状が回復した後も比較的長期間にわたって便などから排泄されることがあります。
予防方法	排泄物の取扱いについて注意すること及び手洗いの励行が基本となります。

#### ○ヘルパンギーナ

病原体	主としてA群コクサッキーウイルス
症状	突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり、口腔内に小水疱が現れます。小水疱はやがて破れ、疼痛を伴います。潜伏期間は3~5日とされています。 ・ 喉や口の中が痛く、食事が摂りにくい場合は、あまり噛まずに飲み込めるやわらかい物を与えましょう。 ・ 高熱が出ているときには、脱水状態にならないよう、水分の補給を充分に行ってください。
感染経路	接触感染を含む糞口感染と咳などによる飛沫感染です。急性期に最もウイルスが排出され感染力が強いのですが、回復後も2~4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されます。
予防方法	乳幼児のオムツ交換の際には、手洗いを励行し、洗濯物は日光で乾かすことなどです。